

「PRISMの今後の在り方に関する検討会」（仮称）の設置について

令和元年 6 月 2 7 日

SIP/PRISM総括

1. 趣旨・目的

PRISMは、平成28年12月の「科学技術イノベーション官民投資拡大イニシアティブ」に基づき、平成30年度に創設され、本年度で2年目を迎える。PRISMは、官民研究開発投資拡大を目指したプログラムであるが、PRISMで実施すべき研究テーマの選定や成果の評価等に関する執行方法の難しさといった課題が明らかとなってきた。特に、ガバニングボードがトップダウンで、CSTIの各種戦略に基づく研究開発を関係省庁に対して実施せしめる誘因としてPRISMを活用するという考え方は極めて独創的であるものの、その実施は、時間的・体制的な制約等から難しい面があるのも事実であり、その効果の検証も慎重に行う必要がある。

このため、6月27日のガバニングボードにおいて本年度の配分案を最終決定すると併せて、来年度以降のPRISMの運用の在り方を検討する検討会（「PRISMの今後の在り方に関する検討会」（仮称））をガバニングボードの下に設置し、本年10月を目途にPRISMの運用見直し案を策定し、ガバニングボードでの承認を得ることとしたい。

また、「統合イノベーション戦略2019」（令和元年6月21日閣議決定）においてもPRISMの今後の在り方等を議論する旨が決定したところである。

なお、6月24日に実施された令和元年内閣官房・内閣府本府等「行政事業レビュー公開プロセス」においては、「事業内容の一部改善」との指摘を受けたところである。

【論点/問題意識】

- PRISMの目的である①「民間研究開発投資の誘発」又は②「財政支出の効率化」につながる研究開発を本当に支援できているのか。特に、①について、民間研究開発投資の誘発効果の試算を示すだけの現状にとどまらず、民間企業からの研究開発投資を促進するため、PRISMで支援する研究開発テーマは「産学連携」を必須として、PRISM予算では「学」側のみを支援するのも一案ではないか。例えば、「民間研究開発投資の誘発」という観点から、「産」側がいくら投資するかに応じて、PRISM予算による「学」側の支援額を決めるという運用もあり得るのではないか。
- PRISMが支援する対象施策（研究テーマ）は、CSTIが策定する各種戦略に位置付けられることは当然（入口要件）としても、それ以外の“入口要件”をどう考えるか。特に、SIPとの一体的運用をより確実なものにするための要件を設けるべきではないか。
- 対象施策、予算等はガバニングボードで最終決定するが、領域統括の機能・権限をより明示化する必要はないか。他方で、SIPとの一体的運用を確実なものにするのであれば、領域統括制度の廃止を含めて見直しを行い、SIPのプログラムディレクタ

ーがPRISMの研究テーマも併せてマネジメントすべきという議論もあり得るか。

- PRISMの支援条件をもっと具体的に決めるべきではないか（例：支援期間、元施策の有無、一件当たりの予算規模、など）。
- PRISMの評価は、外部評価を行わず、プログラムディレクター（ただし、PRISMのプログラムディレクターは、SIPのプログラムディレクターとは立場等が異なる。混同を避けるためにも、名称変更すべきか。）による自己評価にとどまっているが、果たしてこれで十分か。SIPと同様、ピアレビューや外部評価制度を導入して、PRISMによる成果・効果をしっかり検証すべきではないか。評価サイクル（PDCAサイクル）についてもSIPと一体的にすべきではないか。

2. メンバー（案）

短期間で集中した議論を行うため、小規模の検討会を設置する。具体的には、以下のメンバーを想定。

- ◎橋本 和仁 CSTI 有識者議員（国立研究開発法人物質・材料研究機構理事長）【座長】
- 久間 和生 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構理事長
- 上山 隆大 CSTI 有識者議員（常勤）
- 篠原 弘道 CSTI 有識者議員（日本電信電話株式会社取締役会長）
- 須藤 亮 内閣府政策参与・プログラム統括

（※敬称略・五十音順）

3. 日程（案）

6月27日 ガバニングボード（本検討会の設置の承認）

7月初旬 【第1回】検討会

- ・現状の課題の洗い出し（論点整理）

8月 【第2回】検討会

- ・2018年度の成果・効果の検証
- ・領域統括、関係省庁、PDからの意見聴取（ヒアリング）

9月 【第3回】検討会

- ・課題に対する解決策の検討

10月 【第4回】検討会

- ・見直し（案）とりまとめ

10月下旬 ガバニングボードで見直し（案）の承認

（※PRISM運用指針も変更）

11月 新PRISM制度の運用開始

（以上）